

令和5年6月15日 議会改革特別委員会 議事録
10時30分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中 真樹雄、小田上 尚典、北地 範久、
日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 (0人)

○網谷委員長 皆さん、おはようございます。

定足数に達しておりますので、これより議会改革特別委員会を開会いたします。

日程第1、議会改革特別委員会の総括についての意見交換としたいと思いますので、皆さん感じたことを述べていただけたらと思います。

今日の議会改革特別委員会を最終の委員会とさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

さて、議会改革特別委員会、1年10か月を振り返ってみますと、前回選挙が無投票となり、議員のなり手不足の解消という課題に向けて、取り組んでまいりました。

我々後期委員会としては、おおむね前期委員会の流れを踏襲しながら、議員定数の問題に特化した協議、または審議だったと思います。

また、皆様方におかれましては、協議事項に対して大変真剣に取り組んでいただき、本当にありがとうございました。

そして私、委員長としては、会議の進行などに対しましては、委員の皆様には大変御迷惑をおかけしました。御容赦のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、委員の皆さんから、議会改革特別委員会後期委員会についての意見、またはこれからの大竹市議会のあるべき姿など、いろいろな意見があろうかと思いますが、それぞれの立場で述べていただけたらと思います。

北地委員。

○北地委員 全体的に考えてみれば、4年間、前半と後半やってきたわけなんですけれども、定数については、後半の2年でやってきて、現状維持ということが結論づけられて、それはそれでよかったのかなとは思いますが、けれども、まだまだ残された宿題といいいますか、議論すべきことが前半の部分でもまだ残っている状況にあらうかと思えます。基本のところをもう少し掘り下げてやったほうがいいんじゃないかということで、まだ宿題はこれからはあらうと思えます。皆さん思っているとおり、定数については、今後もまた状況も変わりますし、いろいろなシチュエーションの中で、また議論していかなくちゃいけないのかなとは思っておりますので、これが全部になるかどうかは分かりませんが、引き続きこの議会改革特別委員会の中で、議論を継続して進めていくべきであらうとは思っています。

以上でございます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小田上委員。

○小田上委員 まずこの1年10か月で議員定数について話をするということで、委員長はじめ副委員長もしっかり議論の進行を務めていただいて、言いたいことをしっかりと発言できる機会を多く作っていただいたことをまず感謝したいと思います。

いろんな人と会うことがあって、何でなり手が少ないんですかねという話をしていく中で、大きく分けて二つあると思います。

議会が市民に開かれたものになるように議会から変わっていくことと、市民の方が議会にもっと関心を持つという、市民の意識の変化もないといけないのかなと。

よくこういう仕事をやろうと思うねと言われることも同世代では多いので、結構ネガティブな印象のある仕事なのかなと思います。

達成感とか使命感とか、そういうものを持ってやっている、その魅力をしっかり伝える作業、そしてどういうところがおもしろいんだろうって市民の方も関心持ってもらおうと、両方の歩み寄りが必要なのかなと思います。

ですので、なり手不足とプラス、魅力の創出をしっかりとやっていっていただいて、その中で定数についても、中身のある話をしていただけたらなと思います。

その前段としては、いい2年間、ひいては4年間になったのかなと思います。ありがとうございます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

少しはよかったかなという意見が出たので、ちょっと安心しました。

藤川委員。

○藤川委員 前半の2年、15項目ほど課題が挙がったんですが、結局4項目実行いたしました。残りの11項目は今後どうしていくのかというのも残っておりますし、後半の2年間は議員定数ですよ。本当に難しい問題だったと私の中でも思っています。

今後も、この残った11項目も大切ですが、議員定数というのは、市民の方と一体になって考えていかなければいけない課題となりますので、次期も続けて研究してほしいと思っております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

9月から新議会が始まるわけですが、中間報告の中でもこの定数問題については触れておりますので、それは次回の新議会に託すという意味で、皆さん、これからまた委員になられる方もおろうかと思っておりますので、その辺のところもよろしく願いいたします。

ほかにございませうかね、日域委員。

○日域委員 定数っていうのは、自分たちのことを自分たちで決めるというのは難しいよねっていうのは、これは仕組み上、どうしてもあると思います。ただ廿日市市は減らしましたから、できないこともないなと思いますし、でもこれは難しいなというのが印象です。

さっきの小田上委員の話でもないんですけど、今やっている我々が嫌議員を々々やってい

るとは思いませんよね。それぞれの権限や権利を行使しながら、この16名がこの議会の運営をしているわけですから、それはもう当然意味のあることなんですけれども、もうちょっと一般市民の人、有権者の人がどこまで分かっているのかなというか。そういう意味では、PRとか、そのあたりが不十分じゃないかなと思います。

議会としてというともた難しいんですけれども、本質的には、個々の議員が集まって議会ですから、個々の議員がそれぞれの思いで、ああだこうだということ、自分はこう思うということのアピールしていくというか、そしたら反対する人は反対するでしょうから、するとそこに議論が生まれますよね。やっぱりもうちょっとそれが一つの根本的な解決策かなという気はします。また次あるとすれば、よりよいものを目指していきたいと思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小中委員。

○小中委員 率直に言って、無力感だけが残ったと。北島康介流に言えば、何も言えない、それだけです。

○網谷委員長 大変厳しい御意見ありがとうございます。

ほかに、どうぞ。

○原田委員 この4年間は、今の時代に合ったデジタル的な改革というのが少しずつ進行し、議会改革特別委員会でも、ライブ配信ができるようになったということは、少しずつ進歩しているのかなと思います。

これからまたさらにデジタル化が進んでいくと思いますので、さらにこの議会改革特別委員会の中でそういうものを進めていかなければならないのかなと思います。

それから、定数問題については、私も大変残念でした。前回無投票と、人口が減っているということで、本来は削減すべきだったと今でも思っております。

この4年間で思った定数問題についてですけれども、なり手不足ということは、市民の側でおおむね考えるべきことなのかなと私は感じました。

それよりも我々がしなくちゃいけないことは、SNSとかを活用して、市民に情報提供したり、アナログでそういうものを提案していくとかのほうが大事で、なり手不足というのは考えなければならない問題なのかも分かりませんが、もっと全市民的にこれは考えるべき問題なのかなと。我々だけが考えるべき問題ではないのかなとこの定数問題を通じて感じました。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

議長。

○賀屋議長 2年間お疲れでございました。

定数問題について、なり手不足の解消をどういうふうに取り組んでいくかということが大きなテーマであったと思います。先日、中国市議会議長会の総会や全国市議会議長会総会がありましたけれども、どこの議会においてもこの定数削減、あるいは議員のなり手不

足、これについては大きな課題として取り組んでおられます。

最近では、笠岡市の議会が定数を2名削減して、その代わり42万円の報酬を50万円に上げ、それによってなり手不足を少し解消したという取組をしておられました。全国的になり手不足に対しての取組の情報を共有して、いろんな施策、あるいは対応している部分で参考になり、あるいは大竹市でも対応できるような事案があると思います。今後そのあたりも含めてしっかりアンテナを広げて、皆さんで知恵を出していただければと思います。

2年間お疲れさまでございました。

○網谷委員長 ありがとうございます。

副委員長、よろしいですか。

○西村副委員長 2年間、網谷委員長を支え、皆さんの協力で議会改革特別委員会をやってまいりました。

結論から言えば、もうちょっと進めたいという気持ちが私自身もありました。今も議長言われましたように、他の市町のこともあります。大竹市として、議会改革をどうするかもっと1点に絞って集中した審議がしたかったのが本音であります。

次回また新しく議会改革特別委員会になられる人も含めて、本来は16名で協議するべきなんです。委員会だけでなしに、一番身近なことです。またそういう意味では、今後やり方、委員の構成、考えてみたらどうかなと感じました。

以上であります。

○網谷委員長 ありがとうございます。

一通り皆さんの意見を聞いてまいりましたが、完全にこれでよしという方はいないというので、なかなか改革となりますと今議長も言われたとおり、全国的に本当に難しい問題でございます。各自治体の議会が定数は決めることができ、報酬は市長の諮問機関であるということなので、一緒に考えるということができれば一番いいですが。また大竹市も選挙がございますので、私の意見としましては、報酬の面も考える必要があるのではないかという感じもします。

本当に定数問題というのは、大変難しい問題だということはつくづく思います。

一応、皆さん意見は出たところですが、そのほかに何かありましたら。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 よろしいですかね。

次回の9月に向けて意気込みでもあったら、発言していただけたらと思います。

どうぞ。

○日域委員 例えば、最終日に向かって請願を出しますよね。大竹市の立場を考えて財政措置をお願いしますよって一言で言えばそういうことです。

でもね、私議員になった頃は、日本国全体も下り坂で、大竹市が大きな課題を抱えて、さあどうするというときでした。

あれから考えて、今は大竹市においては、非常に財政的にもゆとりがあるという言い方がいいかどうか分かりませんが苦しんではいませんよね。

一方では、国家の動き、国家財政はどうかというと非常にまずいわけですよ。もうそ

れこそなかなか打開策が見出せない、政府が方針を打ち出しても財源どこにあるんやという感じじゃないですか。

そういう中において、相変わらずうちの市のためにお金くれっていうのは悪いことじゃない、当然ですけども、ちょっと私の本音から言うと心配の部分が、大竹市のことからもっと大きいことになってますね。

意見書も大竹市のためじゃなくて、国のためにこうしたらどうという内容があってもいような気もします。

やっぱり本当におもしろくないと市民も関心持ってくれませんから、例えばの話、五日市町が広島市に合併するときなんかは、五日市町議会なんて大騒動ですからね。だから本当に関心があったら市民は向いてくれるんですよ。

でも今、どっちに転んでもそこそこいよねと皆さん安心しているから、大して関心持たんでもそこそこやるよねと思ってくれているという気がします。

だから、おおむね承認はしてもらっているんでしょうけれども、でも、やっぱり上手に課題も提供していきながら議会の中身も分かってもらうように努力していかないといけないのかなという気がします。

今本当、国が地方をすごく大事にしていますから、だからどこのまちも財政的に窮屈さはなくなっていますよね。でもそれがいいのかという気もしますしね。

そんないろんな複雑な思いを持っていますけれども、以上にします。ありがとうございました。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ほかに何かございますか、国の問題でもよかろうとは思いますが。

原田委員。

○原田委員 定数問題ですけども、今後も議論していくべき問題ではないかなと思います。

それで、副委員長が言われたように、全員で考えていくべき問題なのかなというのは私も思いますので、どうなるか分からないんですけど、もし可能であれば、この議員定数の問題だけを切り離して、全議員で考えるような、特別委員会なのか何なのか分かりませんが、そういうものを作ってやっていくとか。定数問題というのは切り離して取り上げてがよいのかなという提案だけなんですけど、以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

議員定数に特化した特別委員会という意味ですか、大変考えるところがある意見です。

何かございますかね。

小田上委員。

○小田上委員 日域委員にさっき言ったことを触れていただいて、みんなやりたいことがあってやっているんだと思うんですね、議員は。

何かやりたいこと、大きなことを動かそうとすると、議会に出るとか、何か長になるとか、そういうところに行かないとなかなか見えてこないものが多い時代が長かったんだろうと思います。

そこから変わってきて、本当に市民の活動、個人の活動でもある意味、日本を変えられ

るようなことが簡単になってきた、だからこそ議会というところが議案の審査っていうところを特化して、しっかり専門性を持って、議会人はこうあるべきだっていうものを持たないと、今後ますます難しくなるのかなと思います。人に議員いいよと、自分は楽しくやってるよ、やりがいあるよって言うんですけど、それを自信を持って勧められるかどうかの判断基準で、毎回思っているのが、子供に勧められるかどうかというのを常考しているんですけど、僕は現段階では、絶対子供には勧めない。給与面、報酬面で言っても額面上で見れば市民の方はやっぱり多いと思われま。実際中に入ってみると、4年に1回選挙があつて、我が子にこれが楽しいよ、やりがいがあるよってまだ言えるところまでは来ないなと思うので、ただ選挙出たらいいんじゃないと後輩だったり、周りの人に一緒にやろうよとかつていう声かけは、日々していくわけですね、なり手不足というところがあつて。その矛盾を感じながらずっとやっていると。

個人的にすごく達成感を感じるということのが日々難しくなっているなっていうのが正直なところですよ。

地方議員というのはなかなか成果が見えにくいというか、家族に自慢することもなかなか少なくなるんじゃないかなと。

そういうところで、1個ずついいところはあるんですけど、漠然といいなというところで、なかなか僕の語彙力では言語化することができないというところで、まだ子供には魅力を伝えられないなと思います。

ですので、ここをしっかりと噛み砕いて、小学生にもしっかりといいものなんだよと伝えられるようになったときは、大竹の議会の魅力が出たのかなと思ったりもするので、そういう小さい子にも分かってもらえるような、次の議会になればいいかなと思っています。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

現役の議員さんが今小田上委員が言われたように魅力として感じていないというところも読み取れるかなというような気がいたしますね。

それが議会改革にこれからつなげていくということなんですが、大変難しいハードルだなと私自身も考えております。

○日域委員 小田上委員のおっしゃったことも含めて、デジタルっぽい社会とアナログっぽい社会の違いかもしれませんが、それは一つのステップとして、議員になって、それからどうしてこうしてっていう時代と、今みたいにどうかすれば世界に情報流せますしね。そういうのはあるかもしれないなと思うのと、それと若干似てるんですけど、社会の発展途上国に行けば行政組織はできてないけれども、人間関係はすごく濃密なわけですよ。進化した社会から見れば地縁、血縁に固まっているというのはよくないことかもしれませんが、昔はもっと土着した組織があつて、うちの地区から議員がおらんかったらおかしいと、誰か出そうというのがあつたりしたんですけど、今そういうのが、早い話が自治会の自治会長のなり手がいないということと同じだと思うんですけど、何かあっさりとか着力がなくなって、そういう時代になってるんだと思いますけれども、でもそのよさはあるんですけど、よさばかりじゃないですから。一人一人の考えを上手に

まとめて、地方自治体も動かしていくべきで、新しいことを考えないといけないですよ。

例えば、この定数問題でも、私限界があると言いましたけど、市民の代表みたいな人が一部でいてくれるとまた変わるんでしょうね。それが偏った人が来ると振り回されますし、そこは物すごく難しいんですけども、将来的にはそんなやり方もあるのかなという気がします。ありがとうございました。

○網谷委員長 ありがとうございます。

先ほど副委員長が言われておりましたように、他市町の例ももちろん大切なんですけど、大竹独自の改革も必要ではないかと思えます。

ほかにございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 これは皆さんも議論していただければなりませんし、これから先も続くかと思えますので、しっかり考えていただきたいと思えます。

そのほか何かございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 ないようでしたら、予定では今日の委員会が最終で変わりはないんですが、まだ2か月余り任期がございますので、その間に皆さんから、協議しておきたいというのがございましたら、連絡いただきたいと思えます。

副委員長と協議いたしまして、委員会の開催の是非を決めたいと思えます。次回開催の予定は決めませんが、気がついたら言っていただければと思えます。

それでは、皆さん、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

11時04分 閉会